

1 自己評価及び外部評価結果

(さんゆう グループホーム ふいりあ)

事業所番号	0670400738		
法人名	有限会社 三友医療		
事業所名	さんゆうグループホームふいりあ		
所在地	米沢市万世町桑山4660番地		
自己評価作成日	平成 21年 8月 31日	開設年月日	平成 15年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段から鍵をかけない工夫をし自由に生活していただけるよう心掛けています。近くに公園が有りいつでも散歩ができるように支援しており、又地域との交流も更に深めていけるよう、ご近所付合いを大切にしております。散歩に行った時、利用者さんがご近所から季節の野菜・果物を頂いてきたり、ホームからおすそ分けをお持ちしたり、交流を図っております。認知症の方でも地域で生き生きと生活できるよう支援しています。これからも笑顔で家族の一員のように共に過ごしていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日のように利用者は近くの公園に散歩している。利用者本位の支援がなされており、食事でも利用者の希望を取り入れ、排泄もオムツを使わず、極力トイレでの誘導が行われている。日常の観察から、利用者の思いや意向に沿った支援が心がけられている。食事作りや、片付け等利用者の役割もあり、家庭の延長としての生活が送れるよう支援している事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株) 福祉工房		
所在地	〒981-0943 仙台市青葉区国見1丁目19-6-2F		
訪問調査日	平成 21年 10月 7日	評価結果決定日	平成 21年 10月 23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は食堂・厨房・和室に掲示しており毎日の朝礼で唱和しており、ケア会議でも理念にふれ日々のなかで反映させている。	職員の意見をもとに理念が作られており、事業所内の目に付くところに掲示され、毎朝の会議で唱和し常に、理念を意識した支援が行われるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーを利用し、地域の行事にも参加させていただいている。子供さんの散歩の途中で立ち寄り下さる方もおりふいりあの行事に案内状を持ってお誘いしている。	買い物や散歩の時に近所の方と話ができる関係になってきている。散歩の時に子供と一緒に立ち寄りしてくれる方も出てきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に積極的に挨拶をしている。近所の方から畑で採れた野菜を頂いたりふいりあからのおすそ分けをお持ちしたりと、お付き合いをさせていただいている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催し会議で提案された項目など、話し合いはサービス向上につなげていく姿勢で取り組んでいる。理念やホームの状況評価などについて意見を交換し取組について意見をもらうなどをしてサービスに反映させている。	2ヶ月に1回定期的開催されている。事業所の報告を主体に進められている。地域の方の出席もあるが、町内会長の出席まではいたっていない。	地域の自治会長等の参加を通じ、地域の方への情報発信、事業所のイベントのお知らせ、地域のイベントへの参加等をより積極的に行い、更に広く地域の方に事業所を知ってもらえるような取り組みを行っていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受入れをしゆっくりお茶を飲みながら利用者、職員の話を聞いていただいている。運営推進会議にも出席いただき意見をお聞きしている。	介護相談員を受け入れている関係から、担当者とはいつでも相談できる関係は作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所が特に力を入れている点でも述べたように玄関には鍵をかけず自由に外出出来るようになってきている。又月1回のケア会議などでも折に触れ話し合いをもち浸透させている。	玄関の施錠は20時～5時迄である。日中、利用者は自由に外出できるようになっている。職員へも月1回のケア会議などで身体拘束について指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会においても高齢者虐待防止法に関する学びをしてお話し合いを持ち防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の研修があれば積極的に参加しているが理解することが困難である。それを伝えようとしてうまく伝えられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み合わせ説明し、特におこりうるリスクについては詳しく説明の上、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回介護相談員を受け入れ、ゆっくりお茶を飲みながら利用者の相談、話を聴いていただける様になっている。意見を記入、投函していただけるようボックスも設置している。	月1回介護相談員を受入れて利用者の意見を聞いてもらっている。又、家族の面会の時、極力意見を聞き出すように言い易い雰囲気を作っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から問いかけ、聞き出しなどコミュニケーションを図り月1回の会議では全員が意見を出しやすいよう位置関係を考慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社側と職員1人一人の面談があり資格取得に向けた支援、手当などについて職場に掲示してある。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体の研修を月2回開催しており全職員が参加できるよう配慮されている。事業所外での研修にも積極的に参加している。事業所内での研修発表の場があり全員で共有するようにしている。	法人全体の研修が月2回開催されており、全職員が順番に参加できるようにしている。外部研修にも積極的に参加し、事業所での伝達研修を行い、内容を職員全員で共有できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	昨年までは置賜ブロック連絡協議会の学習会に参加していたが、今年度学習会がなく参加できていない。しかし県の学習会や交換実習などを通じ知識、視野を広めてサービス向上につなげている。	山形県のGH協議会に参加しており、交換実習にも参加し情報交換や知識の取得に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に本人と面談し、求めていること、生活状態など把握し不安などに対し十分話し合い受け入れてもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に本人との面談後ご家族の不安や要望など聞きそれに対し、どんな対応ができるか事前に話し合いをもっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、実情等今何が必要かを見極めサービスにつなげられるよう職員と話し合い、行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であり、先輩から学ぶという考え方を全員で共有しており穏やかに自由に生活できるような場面作りや声掛けをしており傍に寄り添っている。又会社で、ありがとう経営を推進しておりお互いに感謝の言葉がでるような環境作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは一緒にお茶を飲みながら他利用者さんの話相手になっていただいたり行事に参加いただき、お手伝いなどもお願いし私たちも支えていただいている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の方にはご本人の行きたい所、思い出の場所をお聞きしながら出かけられるよう支援している。地域に暮らす親戚の方にもいつでもお出でいただき、又遠方に暮らす娘さんとの手紙のやりとりを継続していけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合った人同士で過ごせる場面作りを心掛けている。すべての職員が関係性について情報を共有しておりそれぞれの場面を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所等に移られた方や家族にも、いつでも立ち寄っていただけるような声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添う時間を大切にしており日々の関わりの中で表情、言葉の中から思いを把握するよう務めている。意思疎通困難な方は家族などから情報を得ている。	センター方式を活用し、日々の利用者とかかわりの中から、本人の意向や思いを引き出す努力がされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の際プライバシーに配慮した生活歴などお聞きしている。入居された後も関わりの中で聞いており面会時家族からもお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活で全体像を把握するようにしている。その中から本人のできる力を引き出し見落とさない様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活機能、健康状態、精神面での状態等全職員で話し合い、ご家族や本人の希望を聞きながら必要時は主治医の意見を取り入れて作成している。	6ヶ月ごとにモニタリングを行い、家族、利用者の希望を聞き現状に即した計画書を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員と常時話し合いながら、又ケア会議にて気づき、工夫など情報を共有しながら実践や介護計画に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で開催される行事等に参加させていただきながら避難訓練など防災についてもお話しをいただいたり安心して生活できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医になっている。入居の際説明を行っており家族の協力で付き添い受診をしている。協力医の往診も月2、3回行っている。	利用者や家族の希望により、協力医もしくはかかりつけ医への受診を行っている。協力医には月2～3回往診に来ていただいている。通院は原則家族が対応しており、緊急時には家族と協力して対応するようにしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時いつも来て頂いている看護師に日常の健康管理のアドバイスなどいただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は交代でお見舞いに行くようにしており退院に向けての面談、退院後の留意点など詳しく説明を受けるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が上がった場合は職員、家族、医師を含めて話し合いをもつようにしており、指示をいただいている。事業所が対応しえるケアについて家族に説明している。	介護度が上がった場合や、重度化した場合は家族、医師、職員が話し合いを持つようにしているが、重度化した場合の指針は作られていない。	入居時に説明出来るように、早期に指針、確認書を作成し、家族と共に利用者が安心して生活できるように取り組まることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全員うけており、急変時対応マニュアルなど活用し各自勉強し会議など折にふれ復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており利用者にも参加していただいている。誘導、消火器の使用法、避難経路の確認など全員で把握している。近所にも参加の呼びかけや協力の依頼を書面で配っている。災害時の対応についても日頃から関心を持つように心掛けている。	防災訓練は年2回行われており、消火器の使用法、夜間想定訓練も行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報保護法の理解に努めている。日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉遣いに気をつけ会議などでも取り上げ職員の意思向上につとめている。	月1回の会議において、利用者の誇りや、言葉使いに関しての話がされており、支援の場での不適切な言葉掛けに関しては、その都度注意を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提案し自己決定できるよう心掛けている。意思表示が出来ない方であっても表情、全身の反応を見落とさないよう注意を払い本人を把握する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としている一日の流れはあるが時間の区切りはなく、その方のペースに合わせて柔軟に対応している。レクリエーションなどにおいても強要せずそれぞれのペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは選択して本人に決めて頂いている。行事外出などには本人の希望をお聞きし化粧やおしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参考にしている献立はあるが利用者の意見を聞いたりしている。盛り付け、食器を洗う人、拭く人など職員と共に行い同じテーブルを囲んで食事を楽しむようにしている。プランターで育てた野菜など取り入れ話題づくりしながら楽しく食事ができるよう雰囲気作りも大切にしている。	献立は前日に利用者の意見なども参考に決めていく。買い物に行ったり、下ごしらえ、盛り付け、片付けなど利用者も参加して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が分かるよう食事、水分補給のチェック表をつけて職員全員で取り組んでいる。飲みたがらない方に対しても家族に対応策をお聞きしながら声掛けし摂っていただくようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを職員が認識しており一人一人の状態に応じ口腔洗浄剤や歯磨き、義歯洗浄などを行い清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しており尿意の無い人にも時間を見計らい耳で声掛け誘導している。その人のサインを見逃さずさりげない誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して、トイレでの排泄を促し、日中はオムツの使用はしていない。夜間は一部尿取りパッドを使用している方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介助が必要な方の把握はできるが自立している方は難しいところはある。しかし本人の訴えやこちらから問いかけを行い水分を採っていただく、主治医に相談するなどの対応をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	目安として曜日や時間はあるが本人の希望に合わせてゆっくり入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。。順番などにも工夫している。	基本は週2回で、入浴時間は午後3時半～6時である。希望があれば柔軟に対応するようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の表情や体調を考慮しながら日中活動する場面を増やす工夫をし生活リズムを整えるよう心掛けている。ソファ、テーブル、椅子を設置しどこでも休息できるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時の薬の説明書を活用し確認、理解している。服薬時、療法を守り症状の変化の確認につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野、好きなことを尊重し役割を見つけ力を発揮して頂けるような支援をし常に感謝の意を伝えるようにしている。気晴らしに外でおやつを食べたりコンサート等に出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人に合わせて自由に散歩していただいたり天気の良い日はホーム前で食事をするなどしている。又月1回のペースでレストランで食事をしたりドライブにて季節感を味わっていただいている。	月1回のペースで、ドライブ、外食を計画している。散歩は自由であり天気の良い日には事業所の前で食事をする時もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時支払の際は預かり金を手渡し、出来るだけ本人に支払っていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話が使えるようにしてあり希望あればいつでも対応出来る状態にある。手紙が届いた時は返事を書くよう促し書かれた時は職員と一緒に出かけ投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには皆で楽しんだ思い出の写真を飾ったり利用者が屋外から摘んできた花などを飾り、又食事作りの音、香りが立ち込めたりと五感や季節感を感じ取れるような工夫をしている。共有スペースに季節にあった雑壇や七夕、だんご木など飾り付ける。	玄関、ホール、食堂には季節の花が飾られ、猫2匹も同居し利用者の気持ちを和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、その場で過ごしていただいたり気の合う仲間と話しなどをして寛いだり出来るように空間にテーブル、椅子を確保し居場所の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していたタンスや使い慣れた椅子、写真や日用品など持って来ていただき生活スタイルもご本人に合わせて居心地の良さに配慮している。	ドアの飾りは利用者それぞれで、その人らしい部屋作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、トイレ、廊下浴室に手すりを設置し、安全確保と自立への配慮をしている。又利用者には、ゆっくりわかるように関わり本人の不安、混乱を取り除き状況に合わせた対応を心掛けている。		